

ジャワ・ニューギニア方面 旅行時の衛生上の注意

医学博士 森久保 茂

日食情報1980.№1の誌上にインド、アフリカ日食旅行時の衛生上の注意を述べたが、今回のジャワ・スラウェジ・ニューギニア方面の日食も云うまでもなく熱帯地での現象であるばかりでなく、日本より衛生環境の劣悪な条件の下で観測しなければならないので、十分な注意が必要である。

流行的疾患として注意しなければならないものは、コレラ、細菌性並にアメーバ赤痢、マラリア等である。

1) コレラ

激烈なアジア型と症状の軽いエルトール型とあり、今迄後者がよく日本に持込まれていたが、現地では最近前者の流行が目立つ由であるから、強制はされないが予防接種を受けた方がよい。全て予防接種は3週間以上経ないと効果(免疫)が現れないから、おそくとも4月中に受けられたい。

コレラ菌は口から入るものであるから現地では生水生物を飲食しないこと。必ず水筒を持参するとよい。インドでの経験であるが暑いため常に口渇になやまされたので、ホテルで煮沸した湯を水筒につめてもらい常に持参していた。但し感染症でなくとも下痢を起すことがある。これは硬水によるもので、世界どこへ行っても安心して水の飲めるのは日本だけと思った方がよい。

2) 赤痢

頻回な下痢を起す赤痢には細菌性とアメーバによるものと二種あるが、いずれも生の飲食物より入るもので、コレラ同様の注意をすればよい。予防接種はない。

3) マラリア

マラリアはアノフェレスと云う蚊によって伝播される疾患で熱帯地の原住民の殆どがこれに罹っていると見てよい。最近日本でも熱帯地に比較的長期に滞在した人達が罹患したまま帰還し、少数ながら死亡例もある。

沼沢地や山脚地帯のジャングルにでも宿泊しない限り、1ヶ月以内の滞在なら予防薬を服用する必要はあるまい。然しなるべく蚊にさされぬ様に注意が肝要である。スプレー型の殺虫剤、虫よけクリーム、蚊取線香等を持参すること。前回インドでの経験では寝室にも蚊は浸入し、蚊張の中、ベッドや机の下にも居た。毎日昼間の中に一度スプレーをして置くこと。食堂やロビーで過すときは足元に蚊取線香を置くこと、夜間の観測時には蚊取線香や防虫クリームを用い、衣服はなるべく体の露出部分を少なくする様に着用すること。現在予防薬も治療薬も国内では入手困難であるから、必要なときは大学の附属病院等に相談されたい。

4) 毒蛇、サソリ等

都会地に於いては先ずこれらの心配はあるまい、観測地には草深い処はさけた方がよい。

サソリは室内にも入ることがあるので、朝靴をはく前に中をよく調べる事、戸外に夜間置いた衣類、タオルなどは使用前に確かめること。

以上の他、直射日光に長く当たると日射病に罹ることがあるから、帽子、傘など用意するとよい。又今回の旅行は交通機関など混雑が予想されるので、不時の用意に、クッキー、せんべいなど腐敗し難い携行食を用意するとよい。

携行薬品、衛生材料としては

健胃剤、感冒薬（解熱、鎮痛剤）、クレオソート、抗生物質（入手出来れば）

脱脂綿、繃帯、バンドエード、消毒用エタノール（70%エチルアルコール）、オキシドール等。

マラリア予防薬の入手方法の案内

マラリアの予防薬を下記にて入手できますのでお知らせします。

(財) 日本熱帯医学協会

中央区日本橋本町4-9 永井ビル5F

TEL 03-241-3261

◎「抗マラリア剤(ダラプリム)」 1錠 35円 (送料別)

1人分8錠程度必要です。日程によって異なりますので、詳しくは同協会の指示に従って下さい。

◎「海外医療ハンドブック インドネシア編」 1冊 1,200円(送料別)

インドネシア特有の病気などの情報をまとめた本です。興味のある方は参考にして下さい。

どちらも注文は電話で可、代金は後払です。
